

## ■平成26年度 福祉教育委員会 所管事務調査報告

### 調査テーマ：子ども・子育て支援事業の推進について

#### 1. 本市の現状と取り組み

本市における子ども・子育て支援については、「延岡子育て支援センターおやこの森」を中心に、多岐に渡る事業が行われている。

##### (1) 「延岡子育て支援センターおやこの森」の主な活動

- ① 子育て親子の交流の場の提供と交流の促進
- ② 子育て等に関する相談・援助の実施
- ③ 地域の子育て関連情報の提供
- ④ 子育て及び子育て支援に関する講習等の実施
- ⑤ サークル活動支援の実施
- ⑥ 育児用品の貸出

##### (2) 「延岡子育て支援センターおやこの森」の主な事業

- ① ファミリー・サポート・センター事業  
仕事と育児の両立、地域の子育て支援で児童福祉の向上を図ることを目的とし、育児の援助を行いたい者（援助会員）と育児の援助を受けたい者（依頼会員）からなる組織「のべおかファミリー・サポート・センター」の運営を行う。
- ② 病後児保育事業  
病気回復期にあり集団保育が困難である児童を一時的に通所させることにより、保護者の育児と仕事の両立を支援する。
- ③ 子育てサポーター家庭訪問事業  
子育て家庭にサポーター（現在5名）を派遣し、育児に悩みのある親の話の傾聴や家事援助等を行うことにより、育児期における孤立感の軽減、育児不安の解消や育児意欲の高揚を図るとともに、児童虐待の未然防止等にも努める。
- ④ 地域子育て支援事業  
子育て中の親子が気軽に集う場所を設けて、子育て相談や支援を行うことで、子育て中の親の孤立感や子育て不安の軽減を図る。

#### 2. 他自治体の取り組み

##### ≪武蔵野市（東京都）≫

##### (1) 取り組みの目的や背景等について

平成4年に「0123吉祥寺」、平成13年に「0123はらっぱ」を子育て支援施設として事業を開始した。当時は孤立した子育てを防ぐことが目的であったが、近年大型のマンションが多く建てられ、共働きの子育て層が多く流入

してきたため、保育園の待機児童が多くなり、ニーズの変化が起こっている。その変化に対応するため、平成27年4月から始まる子ども・子育て新制度では、当該施設に、利用者支援という新たな支援機能を付加し、自分の家庭にはどのような幼稚園や保育園が適しているのか助言を行い、適切な選択が出来るような仕組みを作っていく。

## (2) 取り組みの概要について

「0123吉祥寺」、「0123はらっぱ」においては、公益財団法人 武蔵野市子ども協会へ指定管理委託を行い、下記の5つの基本コンセプトを基に、地域に根差した子育て支援を行っている。

- ① 遊びの充実
- ② 親同士の交流と学習
- ③ 相談機能
- ④ 情報提供
- ⑤ 地域との交流

## (3) 取り組みの効果について

アンケート調査を行い、モニタリング調査を行った結果、「0123吉祥寺」に関しては平成25年度調査の総合満足度は100%。「0123はらっぱ」に関しては、97%という結果が出ており、利用している方にとっては非常に高い満足度が得られている。

## (4) 今後の計画や課題について

平成27年度から始まる子ども・子育て新制度の中で、幼稚園・保育園等の利用者支援制度も求められてくる。そのため、地域の幼稚園や保育園、地域の子育て団体、施設、事業の情報を網羅し、対応出来るスタッフを置き、母親たちから相談を受けながらアドバイスをしていかなければならない。また、財政面では、インフラの再整備に資金が必要な時期がきており、限られた予算の中で、これまで拡充してきた子育て福祉分野をさらにどのように充実させていくかが大きな課題である。

## 3. まとめ

現在、わが国においては、出生率の低下に伴い少子化が進んでおり、本市においても少子化対策は喫緊の課題である。

子ども・子育てをめぐる環境は、核家族化や地域のつながりの希薄化により、子育てに不安や孤立感を覚える家庭も少なくない。また、保育所に子どもを預けたいと考えていても、希望する保育所が満員である等の理由から、子どもを預けられず、仕事と子育てを両立できる環境の整備が必ずしも十分でないことが問題となっている。

このようなことから、保育所等の定員の適正な管理や、地域子育て拠点を活用し、

子育て家庭への適切な斡旋、助言等を行い、安心して仕事と子育てを両立できるような環境を整備していただくよう要望する。

また、保育士や幼稚園教諭不足も深刻な問題となっているが、本市には、保育士資格や幼稚園教諭免許を取得することが出来る九州保健福祉大学があるため、大学等と連携を図りながら、人材の確保を図るとともに、研修等を通じて人材育成を図り、質の高い教育・保育の提供をしていただくよう要望する。

一方で、平成27年4月1日からは「子ども・子育て関連3法」が施行され、子ども・子育て新制度が本格的に始まることとなる。新制度では、「施設型給付」や「地域型保育給付」の創設、「地域子ども・子育て支援事業」の充実等が図られることとなるが、保護者をはじめ関係者への十分な周知を図り、円滑に新制度へ移行されるよう要望する。

最後に、幼児教育や保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を養う上で、大変重要なものであるため、幼稚園、保育園等との連携を深め、多様化する地域のニーズに柔軟に対応した幼児教育や保育を提供していただくよう要望する。

## 調査テーマ：城山周辺を含めた内藤記念館再整備の推進について

### 1. 本市の現状と取り組み

#### (1) 内藤記念館再整備の必要性

内藤記念館は、現在、本市の歴史民俗博物館としての役割を担っており、旧延岡藩主内藤家より寄贈された大名家資料を中心に、市内から出土した考古資料や地域の生活や習俗に関わる民俗資料、また、若山牧水や後藤勇吉といった郷土出身の先賢に関わる資料など、本市の歴史・文化に関わる膨大な資料が展示・収蔵されている。

しかしながら、昭和38年に建築された内藤記念館は築50年以上が経過しており、収蔵スペースの不足や漏水、外壁の落下、展示室・収蔵庫の空調機器・照明機器の故障など、建物全体の老朽化が近年顕著となり、施設の抜本的な対策が急務となっている。

#### (2) 内藤記念館再整備の計画

##### ① 施設の機能・法的位置づけ

再整備後の施設の機能を十分に発揮させるには、耐火・耐震構造であることはもちろん、収蔵や展示・教育活動に関わる、一定規模のスペースと設備を確保する必要がある。また、博物館法における「登録博物館」はもとより、文化庁の指針による「重要文化財の公開承認施設」を目指す。

##### ② 立地場所

現在の内藤記念館は、標高18.4mの高台の上に立地しており、東日本大震災以降の、本市における津波避難場所の基準である11.5mを上回っている。そのため、災害の危険性が少なく、最も安全に資料を保存・公開することができることから、現在の内藤記念館を解体し、同地に再整備する。

##### ③ 整備のスケジュール

合併特例債の活用を前提としていることから、その活用期限が平成32年度末までであることを念頭に置き、基本構想・基本計画を策定し進めていく。

#### (3) 内藤記念館再整備の課題

建設予定地が高台であるため、施設利用者の利便性を考慮すると、駐車場は、可能な限り施設付近に整備する必要がある。

しかし、高台平坦部の面積が限られており、数多くの車を駐車するためのスペースの確保が難しく、平地から高台平坦部までの勾配を考慮すると、道路の拡幅も難しい現状である。

このような状況を踏まえると、大型バスをはじめ駐車スペースは高台下に確保しなければならず、施設利用者の利便性とバリアフリー、ユニバーサルデザインの観点から、駐車場を含む高台下のエリアから、施設建設予定地の高台まで、エレベーターやスロープの設置などの検討を行う必要がある。

## 2. 他自治体における取り組み状況

### ＜弘前市（青森県）＞

#### （1）弘前博物館再整備事業について

##### ① 再整備に至った経緯や背景等について

平成22年に市民会館が築50年を経過し、改修工事の計画が立ち上がり、弘前博物館は、市民会館から電気・空調の供給を受けているため、市民会館と共に更新することとなった。また、博物館も築35年が経過しており、機械設備等が開館当時のまま使用されていたため、更新等の必要性があった。

##### ② 再整備の概要について

###### i) 予算

費目	金額
建築費	260,190,000 円
電気設備費	143,430,000 円
機械設備費	215,985,000 円
太陽光発電システム	59,734,500 円
総工事費	679,339,500 円

###### ii) 工事範囲

新収蔵庫を除く、約1,184 m<sup>2</sup>が工事対象区域。新収蔵庫については、平成14年に整備していたこと、旧収蔵庫の保管物の移動先として使用した為、改修は行っていない。

###### iii) 工事箇所

###### ・修繕工事箇所

外観、打ち込みタイル、展示ケースの手すり・棧、受付天板、斫壁等のクリーニング及び補修

###### ・改善工事箇所

空調設備、電気設備、空調効率化のためのロビーガラスをペアガラス化、空調自動制御化、館内照明設備のLED化等

###### ・新規工事箇所

太陽光パネルを設置。積雪や落ち葉によりパネルの面が覆われると発電効率が悪くなる為、屋上に対して垂直に設置。また空調器中央監視システムを導入し、エネルギー使用量の可視化を行った。

##### ③ 再整備の効果について

i) 空調設備の改善により、展示空間と展示ケース内を個別に設定できるようになったことで利用者・展示物双方に最適な温湿度を提供できるようになった。

ii) ミュージウムガラス採用による展示品の良視化

iii) リニューアル自体の話題性による新規客層（学生、若年層等）の獲得

#### ④ 今後の計画や課題について

常設展示と特別展示のスペースが明確に分けられない構造になっており、大きな特別展示を行う場合、常設展示を一時撤去しているため、今後の計画としては、常設展示スペースの見直しを予定している。

今後の課題としては、ミュージアムガラスを採用し、良視化が向上したものの、来館者の姿がガラスに映る「映り込み」が起こっているため、何らかの対策が必要である。反射防止フィルムを貼ることで軽減されるが、フィルムには色が付いているので、高透過ガラスの効果が無駄になってしまうため、対応に苦慮している。また通常のガラスより汚れや、傷が目立つため、細心の管理が必要である。

### (2) 弘前城本丸石垣修理事業について

#### ① 事業の目的や背景等について

昭和58年の日本海中部地震以降、本丸東面石垣中央部で孕み出しが目立ち始めてきたことから、調査を実施した結果、このままでは崩落の危険があることが判明した。そして、平成19年から文化庁の補助を受け、解体修理のための本格的な地質調査や測量を行った結果、石垣の孕んでいる部分が約1mせり出していることが判明した。また天守が濠側に30cm傾いていることも判明し、城の専門家等の意見を聞き解体修理することとなった。

#### ② 事業の概要について

総事業費：約20億円

事業期間：平成35年まで

国庫補助：史跡等保存整備事業（文化庁） 補助率1/2

事業内容：天守曳家工事、石垣解体修理工事

#### ③ 事業の効果について

重要文化財である弘前城天守を曳家して行う、全国的にもめずらしい工法であることから、観光としてPRし、観光客の増加を見込んでいる。

#### ④ 今後の計画や課題等について

##### i) 今後の計画

平成26年度 11月～ 内濠埋立工事

平成27年度 5月～ 天守曳家準備工事

8月～ 天守曳家工事

平成28年度 9月～ 石垣解体工事

##### ii) 今後の課題

- ・石垣修理事業を観光としてPRするための手法の検討（プロジェクトチーム、専門部署の設置）
- ・石垣修理の石材の確保

- ・修理工法の検討（専門委員会の設置、文化庁との協議）

### 3. まとめ

平成27年3月に東九州自動車道の「佐伯～蒲江」間が開通したことで、九州における循環型高速道路ネットワークが実現することとなった。このことに伴い、本市も本格的な高速道路時代を迎えることとなる。そのような中、城山周辺を含めた内藤記念館は、延岡の歴史や文化を伝える施設として、また観光客を誘致する施設として、地域間競争を勝ち抜くために大変重要な役割を担っている。

現在、内藤記念館には、天下一の称号が与えられた作家による能面をはじめとする様々な貴重な歴史・文化財が展示・収蔵されており、再整備においては、これらの財産を十分に活かし、延岡の歴史・文化を学び、体験することによって、郷土の素晴らしさを再発見し、郷土への誇りや愛着を持ち、感性や創造力を延ばすことのできる施設となるよう要望する。

また、「登録博物館」や文化庁の指針による「重要文化財の公開承認施設」の基準を満たす施設として整備することはもとより、維持管理に係るランニングコストの検討や、バリアフリー、ユニバーサルデザインを考慮した利用者が快適に過ごすことができる施設として整備していただくよう要望する。

そして、内藤記念館に隣接する城山には、「千人殺しの石垣」等の歴史的財産や、全国的にもめずらしいヤブツバキ群が存在し、観光地として誘客するためのポテンシャルを持っている。城山の整備においては、関係各課と十分に連携を図り、内藤記念館と城山が一体となった、市内外に誇ることができる魅力的な観光施設として整備していただくよう要望する。